

磐梯山噴火～現在までのストーリー概略

1888年7月21日の磐梯山の噴火は、477人の犠牲者を出し、生き延びた人の多くもこの地を去りました。水蒸気爆発型の噴火によって、磐梯山の4つの峰の1つが山体崩壊し、壊滅的な岩なだれを引き起こしました。岩なだれによって11の集落が埋没し、膨大な量の岩屑が裏磐梯一帯に流れ込みました。岩屑は主要河川の長瀬川をせき止め、広大な地域を浸水させました。川をせき止めた岩屑によって300以上の湖沼が形成されました。

大山祇神社の鳥居は桧原湖に水没しました。水位が低いときは鳥居の上部が湖上に姿を現します。

壊滅的な破壊のあと、森林再生と地域復興を支援するために政府が先導して皆が一致協力しました。復興活動は顕著に進められ、1950年代には人気の観光地になり、正式に磐梯朝日国立公園と命名されました。公園は、涼しい気候や、美しい湖沼、豊富なハイキングコース、キャンプ場、種々のアクティビティなどで観光客を集めています。